青藍

藍野大学年報 2025

SALUTI ET SOLATIO AEGROTUM
AINO UNIVERSITY

藍野大学

青　藍　【2025年　巻頭言】

学長　佐々木　惠雲

学長として任期最後の年にあたり、未来に向けて藍野大学への提言の場とさせていただきます。

急速な少子高齢化と社会構造の変化が進む中、1つの専門性では解決が困難な課題が山積しています。特に医療・健康分野では地域医療体制の維持困難、医療人材の不足と地域偏在、そして多職種連携の必要性が高まっています。また、慢性疾患や認知症の増加により、病院完結型から地域完結型医療への転換が求められる一方、医療のデジタル化やAI活用の進展により医療・健康分野に必要なスキルも変化しています。

藍野大学では、これからの未来を見据え、人がその生涯を通じて尊厳を保ち、健康に生きることができる社会の実現を目指すべきと考えます。そのために、人のLife（ライフ）、すなわち生きることを「生命」、「生活」、そして「人生」という3つの側面から『TriLIFE』として捉え、その全てが豊かに調和した状態〈TriLIFE well-being（トライライフ・ウェルビーイング）〉の実現が求められます。その達成に向け、教育力・研究力・連携力の一層の強化が必要でしょう。

また、医療・健康分野における人材育成拠点かつ地域の健康増進の中核として、3つのラボを地域に開かれた医療・健康に関する教育・研究・地域貢献のHub（Aino Life Support Hub：AiLiS）として機能させ、多様な他者と協働しながら、医療・健康分野の未来を切り拓く人材を養成し、持続可能な地域医療・健康の実現に寄与していくことも大切だと考えます。

１．これからの未来を切り拓く人材育成【教育力】

- 学生が主体となって学ぶ地域健康共進化型分野横断教育の推進：医療・健康分野を軸に、データサイエンス、社会科学、人文科学を横断・融合して学べる学習者中心の教育を展開します。そして、学生が主体となって地域の医療や健康に関する分野を超えた課題解決的な学びを行うアクティブラーニング型授業を推進し、教育の質向上と地域貢献を相乗的に目指します。
- ICT・AI技術を活用した教育と多様な学習の支援： LMSや電子教科書などのICT技術を活用した教育のデジタル化や生成AI技術を活用したアカデミック・アドバイジングを推進します。また、大学院博士課程の設置構想、オンライン・夜間・リカレントプログラムの拡充により、社会人を含む多様な学習者を支援します。

２．研究力の強化と社会実装【研究力】

- 研究機能の強化と社会実装：中央研究施設などの施設を共同利用できる研究拠点として機能強化を図るとともに、3つのラボを活用した、研究の社会実装に向けた取り組みを支援します。
- 外部資金獲得と研究支援：科研費など外部資金の採択数向上と女性研究者や教員の博士号取得に向けた支援を行います。

３．地域社会との共創・共生【連携力】

- 地域健康共創拠点の形成：自治体・企業・住民と協働し、多文化共修の学びや地域健康課題解決と価値創造を目指す「地域健康共創拠点」と「地域共創拠点センター」を構築します。
- 包括連携協力協定による連携力の強化：地域の医療・健康分野の発展に寄与することを目的とした包括連携協力協定の拡充を図り、教育・研究・地域貢献における連携力を強化します。

４．教職協働のデータ駆動による教学マネジメント改革

- ガバナンス体制の強化：学長を中心とした、意思決定の迅速化と教学・経営の一体運用を推進します。教員と職員がそれぞれの専門性を発揮しながら対等の立場で協働し、教育改善のサイクルを回す、時代に即した教育組織改革を実現します。
- IR データの活用と出口における質保証の推進：MLST、学修行動調査、GPA、国家試験合格率、卒業後アンケート調査など、入学前、在学中、卒業後の IR データを活用した、教育改善と学習成果の可視化を徹底します。さらに、オープンバッジの導入による学習歴のデジタル化を推進し、社会に対して出口における質保証の機能を強化します。

これからの大学運営はますます厳しさをましていくと考えられます。藍野大学が一体となってこの難局に立ち向かって頂きたいと思います。最後に改めて 4 年間本当にありがとうございました。皆様のご活躍とご発展を心より願っています。

2025 年年報　発刊にあたって

副学長・中央研究施設長　栗原秀剛

2025 年は藍野大学にとって大きな変化の年となりました。看護学科が看護学部として独立し、医療保健学部に健康科学科が加わり、2 学部 5 学科体制となりました。さらに、新たな施設として誕生した Fitness Lab、AinoSimulation Lab に加えて先に開設された Clinical Skills Lab を統合した Aino LifeSupport Hub (AiLis) が完成し、施設での教育、研究の活動は言うに及ばず、地域との結びつきを強化する拠点としての利用が期待されます。また、新入生を対象として電子教科書が導入されました。電子教科書は多くの学生に好評ですが、教員の対応には改善の余地がありそうです。健康科学科の入学生(1 期生)は、この新しい学科の歴史を自ら作っていくという気概を持った学生達が集まってくれました。今後、どのように育っていくのか楽しみです。

社会全体に目を向けると、前評判はネガティブなものが多かった大阪万博が 4 月から 10 月まで開催され、最終的には黒字化し、かなりユニークな造形をしたマスコットのミャクミャクは、万博終了後も人気が続いており、何がウケるかの読みの難しさを感じています。また、今年のノーベル賞には日本人研究者が 2 名（大阪大学の坂口志文氏と京都大学の北川進氏）選出されました。お二方とも長年の研究成果が評価されたもので、経緯を知るものとして大変喜ばしく、また、誇らしく思います。受賞後の会見では、そろって日本の研究活動の問題点を指摘されています。それを受けてか次年度の科研費は若手を中心に大幅な増額が予定されています。若手研究枠は現在も採択率は高いのですが、これに応募できるのは年齢ではなく学位を取得していることが前提となります。それ故、大学としては学位取得のための支援対策を考えていくことが科研費採択率を上げることにつながると考えています。

佐々木学長のもと、新たな委員会組織を構築して第 3 期認証評価を受審し、基準に適合していると認定されました。第 4 期認証評価もすぐにやってきます。第 4 期では、改革の具体例が必要となるため、準備には時間がかかります。来年度からの新体制で、新たに設けた中期計画にそって教職員一丸となったスピード観のある活動が必要となりますので、ご協力お願い申し上げます。

目　　次

Ⅰ　大学および学科便り
2025 年度　藍野大学医療保健学部の歩み …… 1
2025 年度（令和 7 年度）看護学部の取り組み
2025 年度（令和 7 年度）看護学科の取り組み
2025 年度の理学療法学科の取り組み
2025 年度の作業療法学科の取り組み
2025 年度の臨床工学科の取り組み
藍野大学医療保健学部健康科学科の 2025 年
2025 年度　看護学研究科の取り組みと今後への課題
2025 年度の健康科学研究科の取り組み
藍野大学　中央研究施設
2025 年度のキャリア開発・研究センターの取り組み
2026 年度に向けた新体制整備に関する取り組み報告
本年の中央図書館の活動
新施設「フィットネス・ラボ」完成記念イベント

Ⅱ　2025 年度の出来事 …… 31
特集 1　2025 年の FD・SD 推進活動
特集 2　新たな認証評価制度がもたらす「大学間比較」にどう向き合うか(教学 IR 室)
特集 3　〈研究紹介〉科学研究費補助金採択課題について
１．卵巣がん早期発見プログラムの開発
－婦人科系サイレントキラー特性の撲滅に向けて－
２．中高年の社会貢献に関する心理的要因の検討：
未来時間展望と社会参加動機の関連
３．アカデミック・ライティングにおける論証の「型」の特徴と可能性
４．加齢による脳内ネットワークの変化－fMRI を用いた脳イメージング研究
５．iPS/ES 細胞由来内耳オルガノイドの内耳移植による内耳再生研究
特集 4　〈令和 7 年度藍野大学優秀研究賞〉
一塩基多型とアスリートの腱・靭帯損傷：系統的レビューとメタアナリシス
特集 5　2025 年度　看護研究会（ANA 会）の実践報告
特集 6　医療法人恒昭会藍野病院 実習指導者対象の研修会実施報告
特集 7　令和 6 年（2024）度看護学科卒業生のための看護技術演習実践報告
特集 8　AinS-Lab.完成内覧会および看護学部開設記念イベントの開催
特集 9　反復末梢磁気刺激（rPMS）の導入によるパーキンソン病患者の QOL 向上と
地域連携構築への試み
特集 10　藍野大学医療保健学部臨床工学科における模擬手術室を活用した実習の取り組み
特集 11　臨床工学技士職業体験 in あいの祭

Ⅲ　学年暦・学生の状況　…… 75

Ⅳ　研究業績と社会貢献　…… 83
科学研究費助成事業について
教員研究業績・発表等
編集後記